

- 道下ふれあいサロン／東栢山道下自治会
- 生物観察教室／金次郎のふる里を守る会
- 城北夏祭り／東栢山城北自治会
- 田の草取り／桜井小5年 ●カイコの飼育／桜井小3年
- 水神祭／栢山神社・東栢山協議会・子ども会

地域交流 健康づくり

たのしむ

道下ふれあいサロン

by 東栢山道下自治会

高齢者の生きがい活動と、元気に暮らすきっかけ作り

7月と12月の年2回、尊徳記念館の食堂で活動しています。無理のない軽運動や落語、器楽演奏を聴いたり、お茶を飲みながらのおしゃべりも弾み、笑い声にあふれています。地域の方々が楽しい時間を一緒に過ごすことで、生活にメリハリができ、自然と声を掛け合える「つながり」もできます。



●時期▶7月・12月 ●場所▶尊徳記念館食堂 ●主催▶東栢山道下自治会 ●協力▶民生委員、地区ボランティア、第2桜寿会、桜井第3包括、地区社会福祉協議会

地域交流 環境保護 尊徳学習

まなぶ

生物観察教室

by 金次郎のふる里を守る会

身近な自然・農業・水辺の生物を知ると共に二宮尊徳翁も学ぶ

栢山農業用水路で水辺の生物を捕り観察します。参加者は小田急電鉄が募集する親子30組60名で東京からの参加者が多いです。赤組2班、青組3班に分かれて川の中に入り、水辺の生物を捕ります。東京からこんな近くで自然体験ができることが喜ば



れています。地元の野菜や米を使った昼食のカレーライスも好評です。午後は尊徳記念館で尊徳学習と縄ぞうり作りを体験します。(共催：小田急電鉄CSR広報)

地域交流 地域防災

たのしむ

城北夏祭り

by 東栢山城北自治会

35年以上続いている一世代を超えて地域の方々に愛される行事



毎年7月の最終土曜日「城北みどりの広場」で開催します。自治会役員・組長さん40名による模擬店の他、東栢山太鼓保存会による太鼓の演奏、城北工業高校ダンス部によるパフォーマンス、同デザイン科によるポスターの作成、近隣の自治会からのカラオケ出演で賑わい、約200名の地域の方々が、暑い夏の夕暮れのひとときを楽しみます。自治会の役員と組長が協力して「夏の納涼祭」を盛り上げ、自治会員相互の助け合いの精神を感じ取ることができます。(協力：昭和運輸、湘南トータルサービス、魚辨、小田原百貨店)

尊徳学習 体験学習

まなぶ

田の草取り

by 桜井小5年

夏休みの自主的な取り組み—自分たちで植えた稲の田んぼへ



夏休みに入っすぐ、自分たちで植えた稲の田んぼへ、雑草抜きに行きました。予定していた日は大雨、「明日も来られるよ！」子供たちの一言で、翌日にもう一度集まりました。腰の高さくらいまでに成長した稲を踏まないように、かき分けかき分け、雑草を抜いていきました。次に来たときにはどんな成長が見られるのでしょうか・・・

ほし

植え付けた水田の苗が、7～8寸(20～24cm)くらい伸びた7月上旬から、水田の灌水を止めて、3～4日、田面を乾燥することを「干し」と称して、一番干し、二番干しと回を重ねて稲が穂ばらみするまで続ける。この干しは子供にとって大いに活躍する行事で、水田の「みぞおち」に「もじり」をかけて水がひけてくると水田にいたフナやドジョウなどがこの「もじり」に入る。村中の川の「あげまい」を外すから、川が浅くなるので、竹で作った「ブツタイ(箕形の魚取り籠)」で魚を捕る。化学肥料を使わなかった当時は、川魚の種類も数も豊富で、大きなザルやビクにいっぱい取ったものである。



栢山村の養蚕

昔を知る

明治末期の栢山村80軒の農家は、水田を主体とした米・麦作りの農業所得で生計を立てていた。米を売るだけでは生計が苦しいので、どこの農家でも養蚕をした。桑を摘んだり、その桑を蚕に与えたり、マユもぎをしたりする作業を子供がよく手伝われたものである。

体験学習 地域の歴史

まなぶ

カイコの飼育

by 桜井小3年

カイコを大きく育てる工夫や桑の収集、繭の利用を考える。



桜井地区はかつて養蚕が盛んだったことを知り、自分たちでカイコを飼い、出来た繭で何を作るかを考え創作活動を行います。総合的な学習で、卵から蚕を育ててきました。卵がかえってからは、毎日桑の葉をあげたり、糞の掃除をしたりして大切に育ててきました。これから、カイコの命を大切に考えながら、繭をどうするか話し合い、繭を使った作品を制作します。

地域交流 地域の歴史

つなぐ

水神祭

by 栢山神社・東栢山協議会・子ども会

明治43年の酒匂川の氾濫による水害が起源

昔の酒匂川の氾濫から、神社で水神を祭ることで大きな災害が起こらないことを祈願してきた行事です。神社の神事、東栢山太鼓保存会のお囃子奉納、奉納子ども相撲大会、カラオケ大会が行われます。



セタ
一般にセタ祭は七月七日であるが、東栢山では一ヶ月遅れの八月七日に「たなばた」といって、笹のついた竹に「セタ」とか「天の川」とか書いた色とりどりの短冊をつけて庭に立て飾り、八日の朝には、酒匂川の流に投げ捨てたものである。